



瀬田の丘裏庭版

主任司祭から瀬田の兄弟姉妹へ

主任司祭 小西広志 神父



創刊 2022 年

編集協力・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部 東京都世田谷区瀬田 4-16-1

湯澤神父さまのこと



わたしたちの兄弟、ミカエル・湯澤民夫神父さまが二〇二三年一月三十一日に瀬田修道院で帰天しました。七五歳でした。

これは新約聖書の『ヘブライ人への手紙』の一節からの言葉です。「それで、イエスも、ご自分の血をもって民を聖なるものとするために、門の外で苦難に遭われたのです。ですから、わたしたちも、イエスの辱めを担い、宿営の外に出て、みもとに行こうではありませんか。」（ヘブ13章12・13節）。

れながら、少し黙想をしました。湯澤神父さまはなぜ、司祭叙階にあたってこのみ言葉を選んだのでしょうか。通常、多くの新司祭たちは、イエスさまの宣教の命令などをみ言葉に選びます。しかし、湯澤神父さまはそうではなかった。

あまり知られていないことですが、湯澤神父さまは病氣の人、弱い立場の人に対しては親身になって関わった人でした。夏になると遠くにいる病氣の人や障がいをもった信者さんを訪問していました。彼にとってはそれが夏休み

「イエズスは御自分の血をもって民を聖なるものとするために苦難に会われました。私達も、イエズスの辱めを荷い、みもとに行こうではありませんか。」

「イエズスは御自分の血をもって民を聖なるものとするために苦難に会われました。私達も、イエズスの辱めを荷い、みもとに行こうではありませんか。」

「イエズスは御自分の血をもって民を聖なるものとするために苦難に会われました。私達も、イエズスの辱めを荷い、みもとに行こうではありませんか。」

「イエズスは御自分の血をもって民を聖なるものとするために苦難に会われました。私達も、イエズスの辱めを荷い、みもとに行こうではありませんか。」

か。」

イエズスは御自分の血をもって民を聖なるものとするために苦難に会われました。私達も、イエズスの辱めを荷い、みもとに行こうではありませんか。（ヘブライ書 13:12-13より）

司祭叙階記念

1978年3月11日

聖 アントニオ大神学校
フランシスコ会士
ミカエル 湯澤 民夫

私が 神様の御旨に いつも
応えることができるように
共に祈ってください。

だったのです。

湯澤神父さまは苦難を引き受けていく、しかもイエスさまと同じように苦難を引き受けていくことを御自分の司祭職の中心にすえられたのだと思います。だからこそ、苦しんでいる人を見捨てることはできなかったのでしょう。教会に集う障がいを抱えた子どもたちやその親たちのためには、やさしいまなざしを注ぎました。葬儀・告別式にはそんなかつての子どもたちや親たちが集まってくれました。

わたしは一度だけ、湯澤神父さまが独りで祈っている場面に遭遇したことがあります。三軒茶屋教会の暗い聖堂でひざまずいて祈る姿は、ご自分の苦難と悲しみをイエスさまに明け渡しているようにわたしには見えました。そのただならぬ気配に、静かにその場を後にしました。おそらく神父さまは福音書にあるように、隠れた場所で見られたところにおられる御父

に向かつてご自分をささげていたのでしょうか。

他人には順風満帆な司祭生活に見えたかもしれませんが、湯澤神父さまは身体的にも、精神的にも厳しいところを何度も過ぎ越してきました。車で大きな事故を起こしたこともありました。新千歳空港で心臓発作に襲われたこともありました。何よりも苦しかったのだろうと思うのは、フランシスコ会の管区長としての重職を担ったときだったと思います。

しかし神父さま、は苦しいとか辛いとか、弱音をなかなか言いませんでした。弱っている様子を人に見せることはありませんでした。叙階式の時に選んだみ言葉と同じように、イエスさまとご一緒に苦難を担っていたのでしょうか。

忘れられないことがあります。二〇〇五年頃、フランシスコ会の総本部から、全世界の若い兄弟たちは、この十数年に修道会を退会

した兄弟たちの事情を管区長より聞くようにという指示が与えられました。わたしたちは湯澤神父さまを囲んで、話を聞きました。暑い日だったと覚えています。神父さまは退会した兄弟たち一人ひとりの事情は話さずに、なぜこころざし半ばで福音に従う生き方を捨ててしまったかを二つの点から話してくれました。一つは、キリスト教の信仰をイデオロギーのように考えた人は退会することでした。もう一つは、愛を無償で受けたと自覚できない人は退会せざるを得ないというものでした。

信仰はわたしたちを自由にします。しかし、時には「こうであらねばならない」と道徳の中に信仰を閉じこめてしまいます。そのような人は他者を裁き、自分自身を裁いてしまうのです。いのちをいただいて生きていくというキリスト教の信仰の真髄が削がれてしまいます。そのような人は自分の惨めさと向きあえずに召命の道を断念してしまいます。

また、自分の惨めさを知るためには、無償の愛を受けなければなりません。「こんな罪人のわたしでも神は愛してくれる」という実感が、他人への無償の愛のわざへと駆り立てるのです。しかし、愛に躓きがあつて、そこから抜けだせない人は、キリストに従う道は難しいのでしょうか。ましてやイエスさまの御許に向かう道のりは歩めないのだと思います。

あの日、語ってくれた湯澤神父さまの言葉は、今でもわたしの心の中で生きています。

お恥ずかしい話ですが、掃除をして見つけた神父さまの御絵を見るまでは、聖書のこの箇所を知りませんでした。改めてフランシスコ会訳の聖書を開いてみると、次のように続いていました。

わたしたちは、この地上に、永久の都を持っていません。わたしたちが探し求めているのは来たる

べき都です。ですから、わたしたちは、イエスを通して、賛美の犠牲、すなわち、み名をたたえる唇の実を、絶えず神にささげようではありませんか（へブ13章14・15節）。

腹水が溜まり、歩くのが困難であつたにも関わらず、瀬田修道院に帰ってきた湯澤神父さまは、祈りには必ず出席しました。毎朝、ミサにも参加し、共同司式をしました。それは、これまでの人生で出会われた人々を聖なるものとするために、祭壇上でささげられるイエスさまの受難と一つになるために、そして何よりも賛美の犠牲として自分自身をささげるための愛のわざだったのでした。

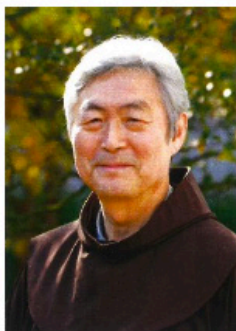
湯澤神父さま、どうぞ、わたしたちが賛美の犠牲をささげることができるように見守ってください。わたしたちがイエスさまからいただいた召命の道をあゆめるようにささえてください。



どようがっこう

ミカエル 湯澤民夫神父さま

追悼ミサ



カトリック瀬田教会

2023年2月25日（土）15時から

ミカエル 湯澤神父様への思い出とお別れの言葉

旭川修道院 院長 間野正孝



「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべてのことについて感謝しなさい」とパウロは言っています。ここ数日、喜ぶことと感謝することが全く出来ません。神は時として、私達には理解できない、心が引き裂かれる様な苦しみを与えます。

何故ですか？

湯澤神父様、今日の葬儀ミサに参列、参加できなくごめんなさい。湯澤神父様にとって七十五年間という人生の中で、沢山の人々との出会いや関わりがあったことと思います。私もその中の一人でした。

湯澤神父様との出会いは、私が瀬田の神学校に入学し、二年間、哲学を教えたのが最初でした。当時、湯澤神父様は田園調布教会から瀬田の神学校に通っていて、「神父になるならこれくらい

はしっかりと覚えなさい。」との愛の鞭で一生懸命、教鞭をとられていましたね。

神学校を卒業し、私は司祭に叙階されました。最初の赴任地が田園調布教会でした。初めて田園調布教会に荷物を運びに行った日のことでした。湯澤神父様と数人の青年が笑顔で迎えてくれ、青年たちに「今度来る新しい神父様だよ」と紹介してくれました。当時の田園調布教会には山辺神父様、菊池神父様、湯沢神父様、ブラザー平田さんという、一人一人とても個性豊かな方々がいて、期待と不安が両方混じった司祭一年目でした。

ある日の土曜日、湯澤神父様から「間野、昼から山の家に荷物を運ぶために行くよ。そして道も覚えてね。」と言われ、二人で山の家に行き、とんぼ帰りで朝、教会に戻りミサをしたことがありま

した。又、毎週土曜日の夕方、地下ホールで湯澤神父様の指導のもと、ドイツ語の聖歌の練習が行われていました。正直言うと私自身、「嫌で、嫌で仕方がなかったです」。ごめんなさい！ 只、その後の皆での飲み会はとても楽しかったです。

二年間の田園調布教会での仕事が終わった私は、川崎での三人による共同体生活をお願いし、修道会として認められました。数年経つと二人がその共同体を出てしまいい、私が一人残されました。修道会の理事会で川崎にいる私について話し合われる度に湯澤神父様は、「間野が一生懸命、川崎で頑張っている。だから続けさせてあげなきゃだ！」と必死に弁護してくれたと聞いています。

川崎で十数年の生活の後、北海道の小教区で仕事がしたいと思い、当時の管区長だった湯澤神父

様に「お話があります」と言った時の神父様の驚きと不安の顔は忘れられません。思いを説明して、「分かった。考えてみる。」と言われ、あとからその願いも叶えてくださいました。湯澤神父様にとつて六年間という長い管区長職の任期中、修道会のために全国を飛び回った心労によって大変重い心臓病を患い、私には理解できない苦しみや辛さを味わってきたのでは



ないかと思えます。

二〇一七年春、修道会の人事異動があり、札幌北十一条教会の主任司祭の後任の人事として理事会では数名の兄弟たちの名前が上がりました。その中に湯澤神父様の名もありました。神父様は北海道大学の大学生活時代、札幌北十一条教会に通っていた経験があり、そこで司祭召命を受け、修道会に入会したのでこのことでした。当時、私は修道会の理事という役職をさせて頂き、何度か湯澤神父様とお話をする機会がありました。

ある時、湯澤神父様から、「人事異動で私が札幌に行くこと噂で聞くが、正式な話がない。どうなっているんだ。」と訊ねられました。そこで私は、「その話なら今、私が理事の一人として札幌北十一条教会の主任司祭に推薦いたします。」とその場でお話をさせて頂きたいのだと、二つ返事で「わかった」と言ってくれました。目上にに対する絶対的な従順の姿がそこに

あり、年下の私と同時に上司である私に対しての小さき者の姿を伺い知る素晴らしい言葉と姿でした。

主任司祭として札幌北十一条教会に来られ、教区司祭会議に参加された時、湯澤神父様は穏やかな口調でお話をするのですが、全て理に叶い、言葉に重みと威厳があり、司教様はじめ教区司祭の方々

がたじたじだったのがとても頼もしく見え、札幌教区は今後、変わっていくと強く実感致しました。そんな矢先、神父様は体調に異変を感じ、「食べても痩せていく」と訴えられましたね。そこからこの病気による辛い闘病生活が始まりました。そして昨年十二月十四日、悩みに悩んだ決断として、東京・瀬田修道院に行くことに決めたと聞いています。何故、札幌から東京に住まいを変え、そこで治療を続けようと決めたのかは湯澤神父様にしかわかりません。只、東京在住の沢山の方々に会い、

最後の別れと感謝を伝えたいという思いも一つはあったのかもしれませんが。

病気のために何年も辛く苦しい生活を送ってこられた湯澤神父様。今は天国でイエスと顔と顔を合わせ、「よくぞ今日まで、病気に耐えながら私を信じ司祭職を全うし小さき兄弟として生きてくれた」と、満面の笑顔でイエスに包まれていることと思います。

今日も北の大地は白銀の世界で、雪と寒さが猛威を振るっています。湯澤神父様が道半ばで成しえなかった北国での仕事を、こ

れからも兄弟一同続けてまいります。どうぞ見守っていてください。

最後に、小さき兄弟会の兄弟達と今日参列された方々、札幌や東京、そして七十五年間、出会ったお一人お一人に祝福が豊かに与えられます様にと天の御父に祈ってください。私も祈ります。

湯澤神父様。七十五年間、本当にありがとうございました。

永遠の素晴らしい歓喜の世界で主と共に。

二〇二三年 二月四日

小さき兄弟会 旭川修道院院長

ミカエル 間野正孝

兄弟一同



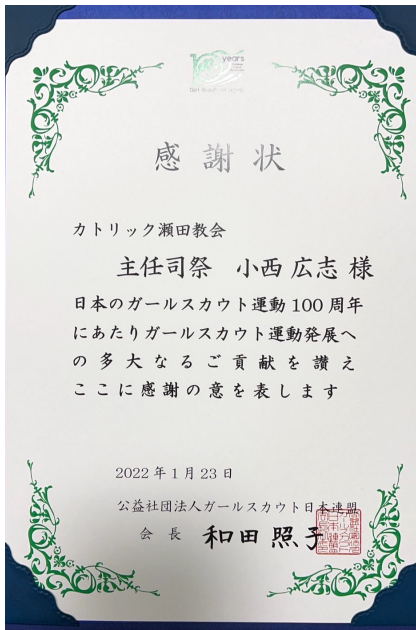
主任司祭からのお知らせ

感染症対策について

新型コロナウイルス感染症対策が緩和されています。しかし、聖堂内では十分に気をつけてください。

また、マスクの着用も緩和されました。マスクの着用は個人に任せられます。

マスクをしていない人を裁かないでください。マスクをしている人に対して悪い視線を送らないでください。



感謝状拝受

公益財団法人ガールスカウト日本連盟より瀬田教会に感謝状をいただきました。

今後も修道院の敷地をスカウト活動に利用していただきます。

典礼の暦

- 4月2日 受難の主日 午前7時、午前8時半、午前9時半
- 4月6日 聖木曜日 午後7時半
- 4月7日 聖金曜日 午後7時半(十字架の道行きは午後3時)
- 4月8日 聖なる復活の徹夜祭 午後7時半
- 4月9日 復活の主日 午前7時、午前8時半、午前9時半

四旬節中は毎週、主日のミサの中で洗礼の準備の典礼をします。

